

GSIA「2018 Global Sustainable Investment Review」を発表

～世界の責任投資市場に関するレポート(2018年版)～

Research Clip
2019年4月

社会システム研究所
研究員 石田 竜大

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題、企業の従業員・地域社会といった様々な社会との関わりなどに関する記事や、国内および海外における公募投信（以下、ファンド）の最新情報を紹介します。

■ The Global Sustainable Investment Alliance(以下、GSIA)は、2018年の世界におけるESG投資の状況をまとめたレポート「2018 Global Sustainable Investment Review」を発表した。GSIAは、ESG投資を推進する世界7団体の協働組織¹であり、本レポートは、世界各国からデータを集め、世界のESG投資の現状をまとめたものである。GSIAはこのレポートを2012年から隔年で発表しており、今回が4回目となる。以下では、同レポートより、ESG投資の概要とESG投資手法、国・地域別の特徴について説明する。

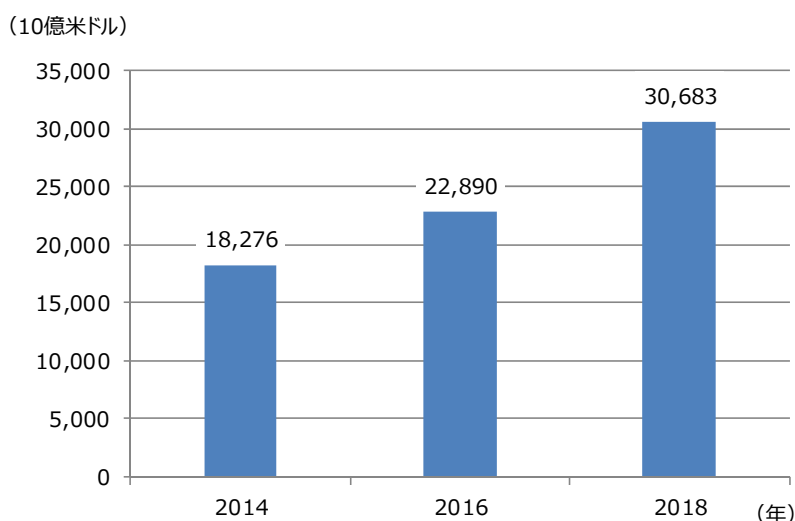
1. ESG投資の概要

図表1に示すように、2018年の世界のESG投資残高は30兆6,830億ドルとなり、2016年から34%増加した。2014年から2016年の増加率25%を上回り、一段と加速した。ESG投資残高はこの4年間でおよそ1.7倍となっており、ESG投資は世界で着実に広がりを見せていることがわかる。

国・地域別のESG投資残高を見ると、ESG投資が普及している主要な国・地域は2018年も引き続き欧州と米国である。欧州は世界のESG投資残高の46%を占め、米国は39%を占める。一方、日本のESG投資残高は世界のESG投資残高の7%を占めるにとどまり、依然として低水準である。日本の2014年から2016年の増加率が高くなっているが、これはESG投資残高の調査手法に変更があったためである。また、欧州の増加率が全体のESG投資残高増加率より低くなっているのは、欧州でESG投資の定義が厳格化されたためである。

¹ Eurosif, RIAA, RIA Canada, UKSIF, USSIF, VBDO, JSIF の7団体 <http://www.gsi-alliance.org/alliance-members/>

図表 1 世界の ESG 投資残高の推移と国・地域別の ESG 投資残高



国・地域	資産残高 (10億米ドル) カッコ内は全体に占める割合			残高増加率 (%)	
	2014年	2016年	2018年	2014年→2016年	2016年→2018年
欧州	10,775 (59.0%)	12,040 (52.6%)	14,075 (45.9%)	11.7	16.9
米国	6,572 (36.0%)	8,723 (38.1%)	11,995 (39.1%)	32.7	37.5
カナダ	729 (4.0%)	1,086 (4.7%)	1,699 (5.5%)	49.0	56.4
豪州・ニュージーランド	148 (0.8%)	516 (2.3%)	734 (2.4%)	248.6	42.2
日本	7 (0.0%)	474 (2.1%)	2,180 (7.1%)	6671.4	359.9
合計	18,276 (100.0%)	22,890 (100.0%)	30,683 (100.0%)	25.2	34.0

(注1)2014年の資産は2013年末、2016年の資産は2015年末、2018年の資産は報告時点の為替レートで米ドルに換算されている

(注2)2014年と2016年のデータはアジア(日本除く)が含まれるため、5国・地域計と合計は一致しない

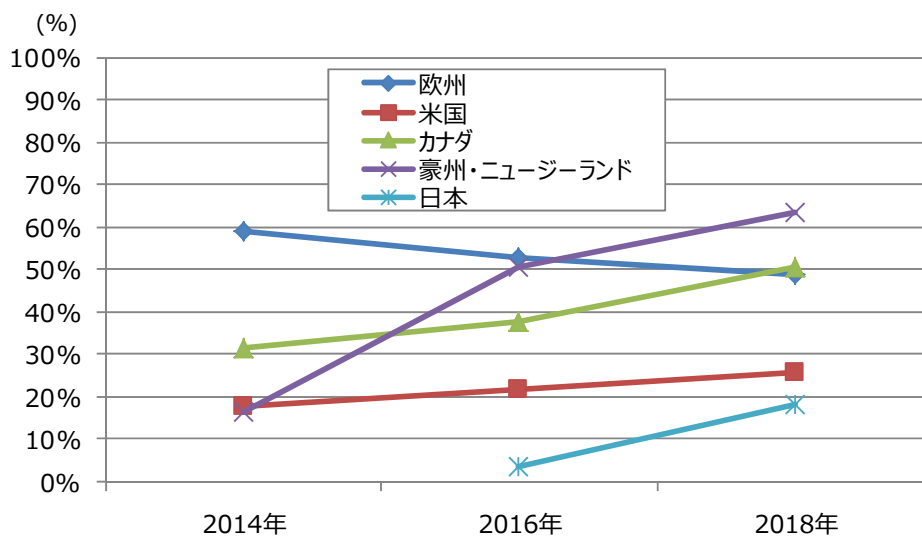
前回まで国連責任投資原則 (PRI) がデータを収集していたが、今回は実施されていない

(出所)「2018 Global Sustainable Investment Review」をもとに当社作成

次に、国・地域別の運用資産全体に対する ESG 投資の割合を図表 2 に示す。運用資産全体に対する ESG 投資の割合は、欧州以外すべての国・地域で増加しており、カナダおよび豪州・ニュージーランドでは、ESG 投資資産残高が全体の運用資産残高の 50%以上を占めている。米国の ESG 投資資産残高は全体の運用資産残高の 25.7%と他の国・地域と比較すると低位にとどまっているが、運用市場の規模そのものが大きい中、堅調に成長を続けている。例外として欧州は ESG 投資の割合が低下しているが、欧州で ESG 投資の定義が厳格化されたためである。

今回の報告で目立つのは日本の急成長である。年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が 2015 年に国連責任投資原則(PRI)に署名し、2017 年から ESG 投資を開始したことが要因だと考えられる。しかし、ESG 投資の割合は 18.3%と他の国・地域と比較すると依然として低位にとどまっている。

図表 2 国・地域別の運用資産全体に対する ESG 投資の割合



国・地域	2014年	2016年	2018年
欧州	58.8%	52.6%	48.8%
米国	17.9%	21.6%	25.7%
カナダ	31.3%	37.8%	50.6%
豪州・ニュージーランド	16.6%	50.6%	63.2%
日本		3.4%	18.3%

(注)2014年の日本はアジア全体のデータに包括されていたためデータなし

(出所) 「2018 Global Sustainable Investment Review」をもとに当社作成

2. ESG 投資の手法

GSIA は、下表のように ESG 投資を 7つの投資手法に定義して報告を行っている。

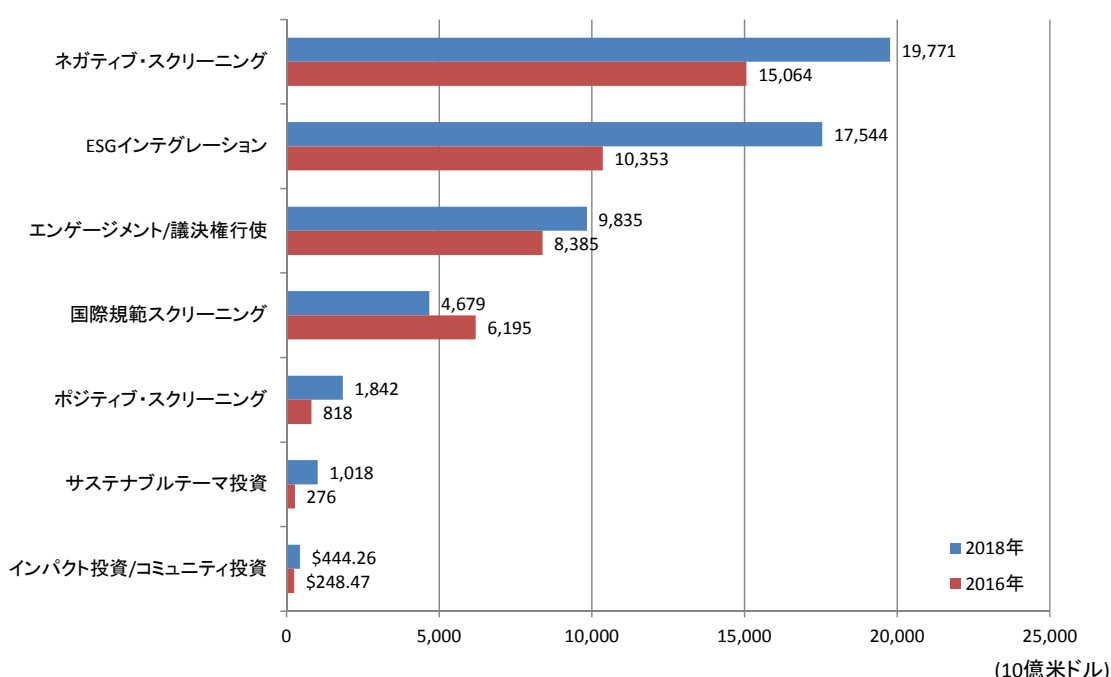
図表 3 GSIA による ESG 投資手法とその定義

投資手法	定義
ネガティブ・スクリーニング	特定のセクターや個別企業をポートフォリオから除外
ESGインテグレーション	投資プロセスにESG要因を組み入れて投資判断
エンゲージメント/議決権行使	ESGの課題について、株主として議決権行使や、議決権行使の前後において、企業にエンゲージメントを行い改善を促す
国際規範スクリーニング	国際的な規範に違反した企業をポートフォリオから除外
ポジティブ・スクリーニング	各セクター内でESGレーティング等が高評価の企業でポートフォリオを構築
サステナブルテーマ投資	ESGの特定のテーマ(クリーンエネルギー、グリーンテクノロジー、サステナブル農業など)を投資アイデアとする
インパクト投資/コミュニティ投資	社会問題や環境問題の解決を目的とした投資

(出所) 「2018 Global Sustainable Investment Review」をもとに当社作成

図表 4 に ESG 投資手法別残高を示す。武器やタバコなど特定の企業や業種等を投資対象から排除するネガティブ・スクリーニングは、前回報告でも世界で最も運用資産残高が多い ESG 投資手法であったが、さらに 31%増加し、19.8 兆ドルとなっている。財務分析に加えて ESG を考慮する ESG インテグレーションは、2016 年から 69%増加し、2018 年には 17.5 兆ドルの運用資産残高となり、ネガティブ・スクリーニングの運用資産残高に近づきつつある。エンゲージメント/議決権行使は 9.8 兆ドルの運用資産残高となっているが、増加率は 17%にとどまり、他の ESG 投資手法と比較して緩やかな増加となった。

図表 4 ESG 投資手法別資産残高



(注)同一資金が複数のテーマを採用していることがあるため、合計金額はそれぞれの資産規模を上回っている

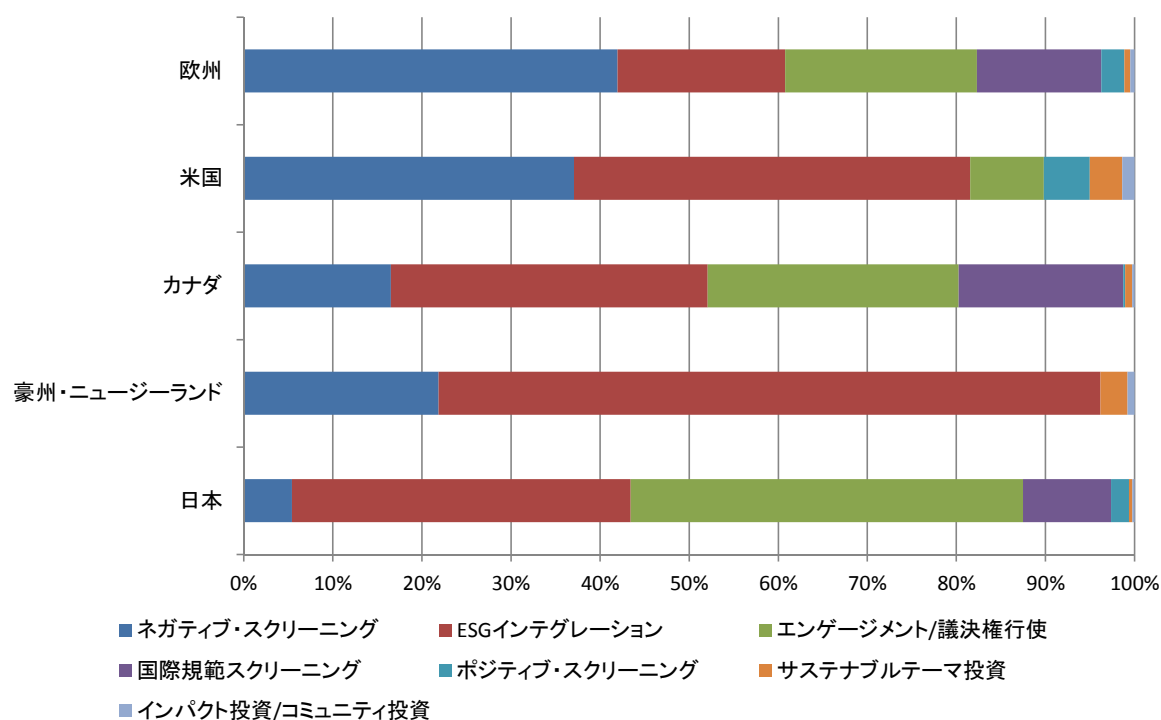
(出所)「2018 Global Sustainable Investment Review」をもとに当社作成

3. 国・地域別の特徴

主に用いられる ESG 投資手法は、国・地域によって異なる。図表 5 に国・地域別の ESG 投資手法内訳を示す。欧州ではネガティブ・スクリーニングが主要(42%)となっているのに対して、米国、カナダ、豪州・ニュージーランドでは ESG インテグレーションが ESG 投資残高の多く(米国 44%、カナダ 36%、豪州・ニュージーランド 74%)を占めている。一方、エンゲージメント/議決権行使は、日本における主要(44%)な ESG 投資手法であることがわかる。企業との対話を促す日本版スチュワードシップ・コードに機関投資家が受入れ表明²したことが影響していると考えられる。

² 直近(2018年12月)では 239 機関が受入れ表明している。 <https://www.fsa.go.jp/singi/stewardship/list/20171225.html>

図表5 国・地域別の ESG 投資手法内訳



(出所) 「2018 Global Sustainable Investment Review」をもとに当社作成

同レポートは、下記 URL よりダウンロードできる。

(http://www.gsi-alliance.org/wp-content/uploads/2019/03/GSIR_Review2018.3.28.pdf)